

R&D部門におけるデータ共有・利活用は、なぜ難しいのか？
「属人化」を脱却するデータ共有・利活用術を解説！

R & D 部門のデータ共有・利活用のための データ共有システム構築と進め方

IoTやAIの普及により、製造工程以降のデータ利活用は急激に進展しています。一方、公的研究機関であれ、民間企業であれ、R&D部門におけるデータの取り扱いが属人的なままであり、研究の信頼性が阻害されたり、効果的なデータの利活用がほとんど進んでいないのが実態です。R&D部門は技術の源泉であり、データを精緻に管理して効果的に利活用する、つまりデータ分析・AI化を行うことは、今後の競争力にとって不可欠です。

本講演では、まず、R&D部門のデータ共有、利活用の実情をお話しさせていただき、データ共有、利活用が進まない状況がなぜ発生してしまうのか？そのような状況にはどのような問題がはらんでいるのか？等を説明させていただきます。次に、データ共有、利活用状況を改善するために必要な方策に関して、データ共有、利活用システムを導入する際に必要な要件及び実際にデータを蓄積分析するときの項目名や分析方法、さらに各個人に必要な意識改革や会社としての体制づくり等を説明させていただきます。

最後に、これら方策を実施した具体例をもとに、改善効果および改善運用後に陥りがちな落とし穴とそれらの回避方法に関して解説させていただきます。

期待される効果

- ☑ 属人的データ共有状況を脱するためのデータ共有システム導入に必要な要件
- ☑ データ探査、分析を意識したデータ蓄積（項目名の決定方法）方法
- ☑ データ共有、利活用状況を改善するために必要なプロジェクトチームの作り方
- ☑ データ共有システム運用後陥りがちな落とし穴とそれを防ぐ方策



講師

上島 豊（うえしま ゆたか） 講師

株式会社キャトルアイ・サイエンス 代表取締役

- 1997年 3月：大阪大学 大学院 工学研究科 電磁エネルギー工学専攻 博士後期課程修了
 - 1997年 4月：日本原子力研究所 博士研究員
 - 2000年 4月：日本原子力研究所 研究職員
 - 2006年 3月：日本原子力研究開発機構（旧日本原子力研究所） 退職
 - 2006年 4月：キャトルアイ・サイエンス設立 代表取締役 就任
- 日本アイ・ビー・エム顧問、東京大学客員研究員、大阪大学招聘准教授などを歴任

R&D部門のデータ共有・利活用のための データ共有システム構築と進め方

1. はじめに

講演者のR&D実績とデータ管理の取り組みについて

2. R&D部門のデータ共有の実情

- 2.1 R&D部門のデータ共有状況
- 2.2 属人的データ共有状況が引き起こす問題
- 2.3 属人的データ共有状況が生み出される原因

3. データ共有状況を改善するために必要な方策

- 3.1 属人的データ共有状況を脱するために必要な方策
- 3.2 データ探査、分析を意識したデータ蓄積方法
- 3.3 データ分析は、どのようにして行うのか？
- 3.4 データ共有、利活用状況を改善するために必要なプロジェクトチームの作り方

3.5 プロジェクトメンバーに求められる資質

- 3.5.1) 研究者
- 3.5.2) プロジェクトリーダー
- 3.5.3) ファシリテータ
- 3.5.4) データサイエンティスト
- 3.5.5) システム開発、運用スタッフ

4. 方策を実施した具体例とケーススタディ

- 4.1 データ共有システム導入による改善例
- 4.2 データ共有システム導入時に陥りがちな落とし穴とそれを防ぐ方策
- 4.3 データ共有システム運用後陥りがちな落とし穴とそれを防ぐ方策

5. まとめ

セミナー概要

2026年 8月28日(金) 10:30~16:30

【Live配信】Zoomによるオンライン受講 【アーカイブ配信】 2026/9/1~9/15

※LIVE配信をお申込みの方は、追加料金なしでアーカイブ配信の受講が可能です。

【定員】定員無し

【受講料】45,000円（税別）（税込：49,500円）※1名

※同一企業様から複数名同時にお申し込み頂くと、人数に応じて下記割引が適用されます。

[2名様⇒20%、3名様⇒30%、4名様⇒40%、5名様以上⇒50%の割引となります]

※開催日の1週間前を目安に、最少開催人数に達していない場合は開催中止とさせていただきます。

申込書

R&D部門のデータ共有・利活用のためのデータ共有システム構築と進め方

以下の事項をご記入の上、日本アイアール・セミナー事務局宛にFAXまたはメールでお申込みください。

（※当社ホームページからのお申込みも可能です。）

会社名		部署名	
住所			
お名前		電話番号	
メールアドレス		受講形態	Live配信・アーカイブ配信

*受講形態はいずれかに○を付けてください。

日本アイアール セミナー事務局

FAX：03-6206-9993

MAIL：ir@nihon-ir.co.jp

(TEL：03-6206-4966)